1 本製品について

本装置の各部の名称やその機能、特長について説明します。

本製品の特長

本製品について紹介します。

おもな特長と機能

本装置はネットワーク上のクライアントPCが利用するさまざまなデータやデータベースをハードディスクに格納することにより、資産の共有化と一元管理化を目的としたネットワークファイルサーバです。

■ Network Attached Storage(NAS)

NASとは、既存環境に対する変更を加えることなく、大規模ストレージシステムを提供するネットワーク接続型ストレージに特化したアプライアンスサーバです。

一般的にNASは非常に導入が容易です。ネットワーク管理やOSに関する広範な知識がなくとも使用することができ、通常管理業務はクライアントからWebブラウザベースのGUI経由で行うことができます。ユーザーはNASをネットワークに接続、電源を投入し、最小限のセットアップ作業を行うだけで運用を開始することができます。

■ 高速なファイルサービス

ファイルサービスに最適化した専門設計により、高コストパフォーマンスを実現。

■ 高い処理性能

- NAS(Network Attached Storage)サーバとしての性能向上に必要な機能のみを実装したスリムな専用サーバ
- ファイルアクセスの性能をチューニングし、優れたパフォーマンスを提供
- マルチプロトコルに対応

■ 容易なシステムの導入と設定

CIFS(Windows)、NFS(UNIX)ベースの混在するネットワーク環境に設定から稼働まで約10分で導入が可能です。

■ 高い運用管理能力

システム運用管理ソフトウェアESMPROで他のサーバ、ワークステーションと連携し、稼働状況の遠隔管理も可能。

■ 拡張性

高さわずか1U(約44mm)の省スペース型の形状は、ラックには最大44台、卓上では最大3台まで積み重ねて設置することができ、装置単位での拡張が可能です。

■ 管理機能

システム運用管理ソフトウェアESMPROとの統合　ESMPRO/ServerManagerによる一元管理や稼動状況の遠隔監視が可能になります。

エクスプレス通報サービス　エクスプレス通報サービスをお申し込みいただくことで、管理センターからの遠隔管理が可能になります。

■ ファイルサーバ機能

マルチプロトコル対応　CIFS、NFS、FTPのマルチプロトコルに対応。WindowsやUNIX、Linuxなどが混在する既存のネットワーク環境に設置するだけで簡単にそのネットワーク環境での記憶容量を拡張することができます。

ファイルアクセス制御　ファイルシステムにNTFSを使用しているため、ファイルのアクセス制御をきめ細かく設定できます。

添付のディスクについて

本装置には、セットアップや保守・管理の際に使用するCD-ROMやフロッピーディスクが添付されています。ここでは、これらのディスクに格納されているソフトウェアやディスクの用途について説明します。

添付のCD-ROMやフロッピーディスクは、システムのセットアップが完了した後でも、システムの再セットアップや保守・管理の際に使用する機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

● Network Attached Storage CD-ROM

システムのバックアップとなるCD-ROMです。

再セットアップの際は、このCD-ROMから本装置へソフトウェアをインストールします。詳細は153ページを参照してください。

購入時のハードディスクには、本装置に必要なOSやモジュール、コンポーネント、管理用アプリケーションがすべてインストール済みです。初めてのセットアップでは、「保守・管理ツールCD-ROM」を使って作成した「設定ディスク」(3.5インチフロッピーディスク1枚)をセットして電源をONにするだけでセットアップは完了します(約10分)。

CD-ROMの中にはおもに次のOSやコンポーネント、モジュール、アプリケーションが格納されています。これらは、再セットアップの際に自動的にインストールされます。

- Microsoft Windows Powered OSと本装置に必要な関連モジュール(Service Packを含む)
- Service for UNIX(UNIX環境との接続に使用するモジュール)
- SnapShot(即時データ複製を可能にするアプリケーション)
- ESMPRO/ServerAgent(管理用統合アプリケーション)
- エクスプレス通報サービス(保守用アプリケーション、利用には別途契約が必要です。)
- その他、専用デバイスドライバや専用モジュール

● **保守・管理ツールCD-ROM**

本体およびシステムの保守・管理の際に使用するCD-ROMです。

このCD-ROMには次のようなソフトウェアが格納されており、その用途に合わせて使用されます。

- 保守・管理ツール
- 初期設定ツール
- ESMPRO/ServerManager
- MWA

CD-ROMはWindows 95/98/Me/2000またはWindows NT 4.0が動作しているコンピュータのCD-ROMドライブにセットすると、自動的に「Install Menu」が起動します。Install Menuからは、Windows 95/98/Me/2000、Windows NT 4.0で動作する各種ソフトウェアの実行やインストールをすることができます。

● **Express5800/StorageServer連携モジュール(フロッピーディスク)**

ESMPRO/ServerManagerから管理コンソール(WebUI)を起動する際に使用します。

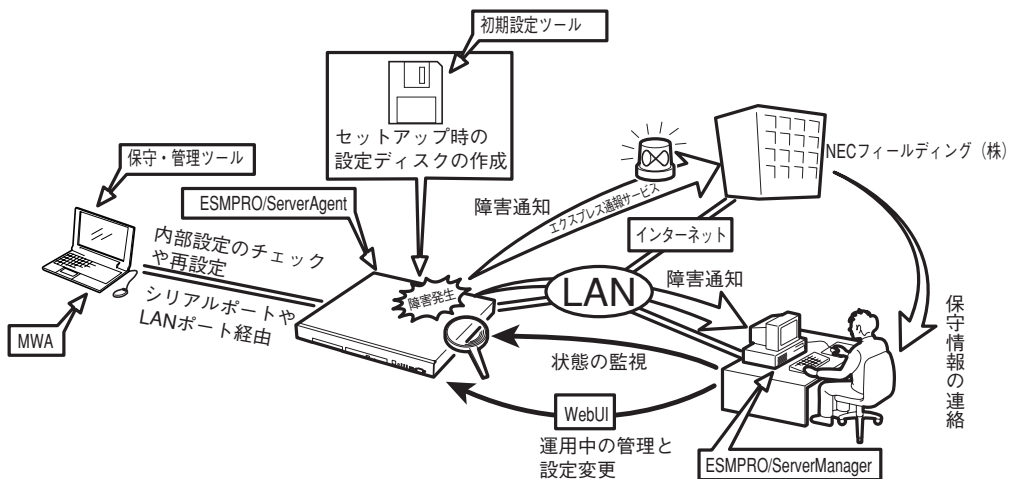
管理アプリケーションの用途

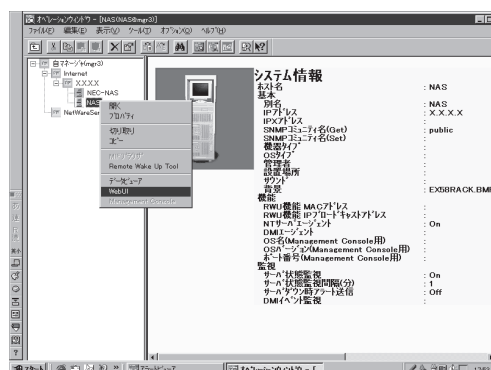
添付のCD-ROMやフロッピーディスクに格納されている管理アプリケーションの用途について簡単に説明します。

システムの運用や管理に関する詳細な説明は、本書の3章「管理者ガイド」に記載されています。

本製品に関する最新の情報は次のホームページからダウンロードすることができます。

http://www.express.nec.co.jp/

「58番街」: 製品情報やQ&Aなど最新のExress5800シリーズ情報満載!

ESMPRO

「ESMPRO®」は、NECが提供するサーバ管理・監視ソフトウェアです。
リモートでシステムの稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。
本装置を運用する際は、ESMPROを利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。

本装置を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」は「Network Attached Storage CD-ROM」に、本装置を管理するためのソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」は、「保守・管理ツールCD-ROM」に格納されています。ESMPRO/ServerAgentはあらかじめシステムの一部として本体に組み込まれています。また、再セットアップの際にも自動的にインストールされます。

ESMPROを使ってさらに高度なクライアントサーバシステムを構築する場合は別売の「ESMPROシステム構築ガイド Ver.2.0(UL9005-201)」を参照してください。この説明書はESMPRO製品をシステムで活用するためのガイドです。

また、ESMPROには、サーバ管理用ソフトウェアをはじめ、ネットワーク管理や電源管理、ストレージ管理を行う専用のアプリケーション(ESMPROプロダクト)が用意されています。ESMPROプロダクトについては、お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。
また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

重要

エクスプレス通報サービスの利用には別途契約が必要です。

エクスプレス通報サービスは「Network Attached Storage CD-ROM」に格納されています。あらかじめシステムの一部として本体に組み込まれています。また、再セットアップの際にも自動的にインストールされます。

保守・管理ツール

後述の「MWA」を介してリモートで本装置を管理したり、システム診断、オフライン保守ユーティリティの実行などを行ったりします。詳細は116ページを参照してください。
保守・管理ツールは「保守・管理ツールCD-ROM」に格納されています。

初期設定ツール

本製品のセットアップ時に使用する「設定ディスク」を作成するツールです。このツールを使ってコンピュータ名やネットワークの設定を設定ディスクに書き込み、セットアップの際に本装置に読み込ませます。詳細は39ページを参照してください。
初期設定ツールは「保守・管理ツールCD-ROM」に格納されています。

Express5800/StorageServer連携モジュール

ESMPRO/ServerManagerがインストールされている環境にExpress5800/StorageServer連携モジュールを適用することで、ESMPRO/ServerManagerより、本製品の管理コンソール(WebUI)が起動できます。

Management Workstation Application(MWA)

リモート(LAN接続またはクロスケーブルによるダイレクト接続)で管理コンピュータから本装置を管理したい時に使用するソフトウェアです。詳細は110ページを参照してください。

各部の名称と機能

本体の各部の名称を次に示します。

重要 **ここで説明していないスイッチやコネクタは使用しません。使用すると故障の原因となります。**

本体前面

<フロントベゼルを取り外した状態>

① **フロントベゼル**

日常の運用時に前面のデバイス類を保護するカバー。添付のセキュリティキーでロックすることができる。

② **キースロット**

フロントベゼルのロックを解除するセキュリティキーの差し口。

③ **POWERランプ(緑色)**

電源をONにすると緑色に点灯する。

④ **STATUSランプ(緑色/アンバー色)**

本体の状態を表示するランプ。正常に動作している間は緑色に点灯する。異常が起きるとアンバー色に点灯、または点滅する。

⑤ **DISK ACCESSランプ(緑色)**

取り付けているディスクが動作しているときに点灯する。

⑥ **UID(ユニットID)ランプ(黄色)**

装置を識別するためのランプ。ランプ点灯中をメンテナンス中とした場合、本体前面/背面からメンテナンス中の装置を見分けることができる。

⑦ **ACT/LINKランプ(緑色)**

ネットワークポートが接続しているハブなどのデバイスとリンクしているときに緑色に点灯し、アクティブな状態にあるときに緑色に点滅する。丸数字の後の数字は「1」がLANポート1用で、「2」がLANポート2用を示す。

⑧ **3.5インチフロッピーディスクドライブ**

3.5インチフロッピーディスクを挿入して、データの書き込み/読み出しを行う装置。

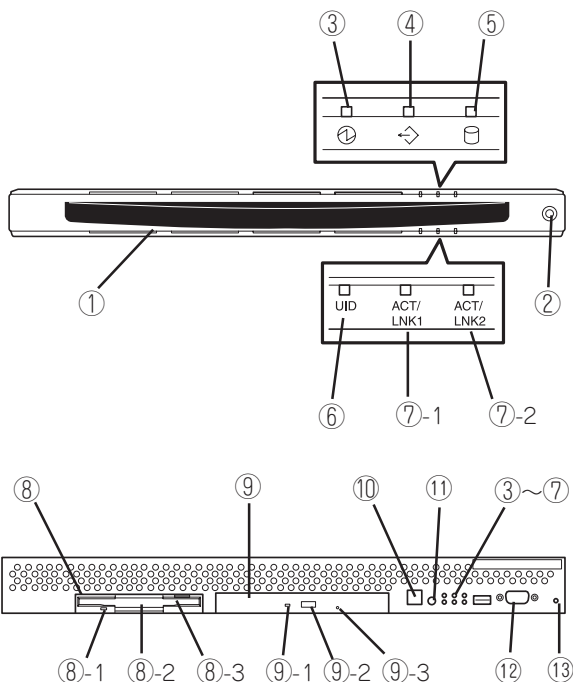
⑧-1　ディスクアクセスランプ
⑧-2　ディスク挿入口
⑧-3　イジェクトボタン

⑨ **CD-ROMドライブ**

CD-ROMの読み出しを行う装置。

⑨-1　ディスクアクセスランプ
⑨-2　CDトレーイジェクトボタン
⑨-3　エマージェンシーホール

⑩ **POWERスイッチ**

電源をON/OFFするスイッチ。一度押すとPOWERランプが点灯し、ONの状態になる。もう一度押すと電源をOFFにする。4秒以上押し続けると強制的にシャットダウンする。

⑪ **UID(ユニットID)スイッチ**

本体前面/背面にあるUIDランプをON/OFFするスイッチ。スイッチを一度押すと、UIDランプが点灯し、もう一度押すと消灯する。

⑫ **シリアルポート2(COM2)コネクタ(保守用)**

管理コンピュータと接続するためのコネクタ。通常は使用しない。
シリアルポート2(COM2)コネクタは管理コンピュータのインタフェースに予約されています(初期状態)。

⑬ **DUMPスイッチ**

押すとメモリダンプを実行する。通常は使用しない。

本体背面

① シリアルポート1(COM1)コネクタ

シリアルインタフェースを持つ装置と接続する。

② LANコネクタ

100BASE-TX/10BASE-Tと接続するコネクタ。LAN上のネットワークシステムと接続する。丸数字の後の数字は「1」がLANポート1で、「2」がLANポート2を示す。接続はポート番号の小さい順に接続する。

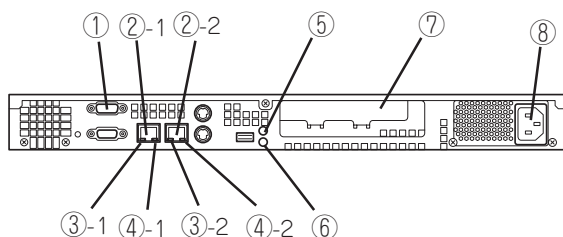
③ ACT/LINKランプ(緑色)

ネットワークポートが接続しているハブなどのデバイスとリンクしているときに緑色に点灯し、アクティブな状態にあるときに緑色に点滅する。丸数字の後の数字は「1」がLANポート1で、「2」がLANポート2を示す。

④ 100TXランプ(黄色)

ネットワークポートが100Mbpsで動作しているときに黄色に点灯する。10Mbpsで動作しているときは消灯する。丸数字の後の数字は「1」がLANポート1で、「2」がLANポート2を示す。

⑤ POWERランプ(緑色)

電源をONにすると緑色に点灯する。

⑥ UID(ユニットID)ランプ(黄色)

装置を識別するためのランプ。ランプ点灯中をメンテナンス中とした場合、本体前面/背面からメンテナンス中の装置を見分けることができる。

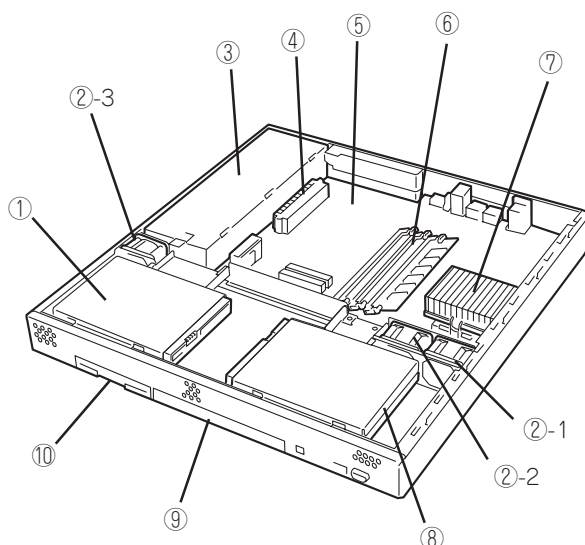
⑦ PCIボード増設用スロット

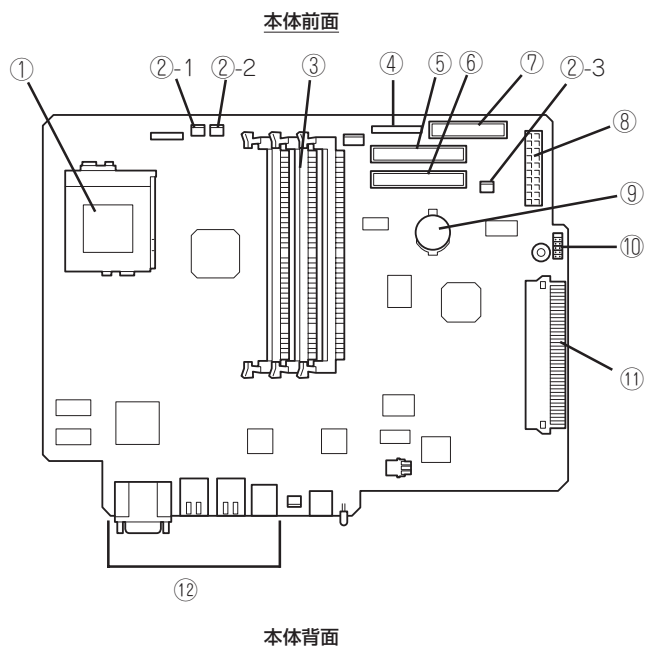
オプションのPCIボードを取り付けるスロット。

⑧ 電源コネクタ

添付の電源コードを接続する。

本体内部

① ディスクベイ2
② 冷却ファン(丸数字の後の数字はファン番号を示す)
③ 電源ユニット
④ PCIスロット
⑤ マザーボード
⑥ DIMM(Slot #1に1枚標準装備)
⑦ プロセッサ(CPU)
⑧ ディスクベイ1
⑨ CD-ROMドライブ
⑩ フロッピーディスクドライブ

マザーボード

① プロセッサ(CPU)
② 冷却ファンコネクタ
③ DIMMソケット(右図の左からDIMM #1→DIMM #2→DIMM #3)
④ フロッピーディスクドライブコネクタ
⑤ IDEコネクタ(セカンダリ)
⑥ IDEコネクタ(プライマリ)
⑦ フロントパネルコネクタ
⑧ 電源コネクタ
⑨ リチウム電池(バッテリ)
⑩ コンフィグレーションジャンパスイッチ
⑪ PCIスロット
⑫ 外部接続コネクタ(前ページ参照)

ランプ表示

ランプの表示とその意味は次のとおりです。本体前面には8つ、背面には6つのランプがあります。

POWERランプ(⏻)

本体前面と背面に各1個あります。電源がONの間、ランプが緑色に点灯しています。

STATUSランプ(◇)

本体前面にあります。本体が正常に動作している間はSTATUSランプは緑色に点灯します。STATUSランプが消灯しているときや緑色に点滅、またはアンバー色に点灯/点滅しているときは本体に何らかの異常が起きたことを示します。
次にSTATUSランプの表示の状態とその意味、対処方法を示します。

- ESMPROまたはオフラインン保守ユーティリティを使ってエラーログを参照することで故障の原因を確認することができます。
- いったん電源をOFFにして再起動するときに、OSからシャットダウン処理ができる場合はシャットダウン処理をして再起動してください。シャットダウン処理ができない場合はリセット、強制電源OFFをするか(14ページ参照)、一度電源コードを抜き差しして再起動させてください。

STATUSランプの状態	意　味	対処方法
緑色に点灯	正常に動作しています。	ー
緑色に点滅	メモリが縮退した状態で動作しています。	BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を使って縮退しているデバイスを確認後、早急に交換することをお勧めします。
消灯	電源がOFFになっている。	電源をONにしてください。
	POST中である。	しばらくお待ちください。POSTを完了後、しばらくすると緑色に点灯します。
	CPUでエラーが発生した。	いったん電源をOFFにして、電源をONにし直してください。POSTの画面で何らかのエラーメッセージが表示された場合は、メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。
	CPU温度の異常を検出した。	
	ウォッチドッグタイマタイムアウトが発生した。	
	メモリで訂正不可能なエラーが検出された。	
	PCIシステムエラーが発生した。	
	PCIパリティエラーが発生した。	
	CPUバスエラーが発生した。	
	ISA I/Oチェックでエラーが発生した。	
	メモリダンプリクエスト中。	ダンプを採取し終わるまでお待ちください。
アンバー色に点灯	温度異常を検出した。	内部のファンにホコリやチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
	電圧異常を検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
アンバー色に点滅	デバイス不良を検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
	ファンアラームを検出した。	内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

DISK ACCESSランプ( )

本体前面にあります。DISK ACCESSランプは本体内蔵のハードディスクやCD-ROMドライブにアクセスしているときに点灯します。

UID(ユニットID)ランプ

本体前面と背面に各1個あります。本体前面にあるUIDスイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。複数台の装置がラックに搭載された中から特定の装置を識別したいときなどに使用することができます。特にラック背面からのメンテナンスのときは、このランプを点灯させておくと、対象装置を間違えずに作業することができます。

ACT/LINKランプ(ACT/LNK1、ACT/LNK2)

本体前面と背面(LANコネクタ部分)に各1個あります。本体標準装備のネットワークポートの状態を表示します。本体とHUBに電力が供給されていて、かつ正常に接続されている場合に点灯します(LINK)。ネットワークポートが送受信を行っているときに点滅します(ACT)。LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルやケーブルの接続状態を確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク(LAN)コントローラが故障している場合があります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

アクセスランプ

本体前面にあるフロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブのアクセスランプは、それぞれにセットされているディスクやCD-ROMにアクセスしているときに点灯します。

100TXランプ

本体背面のLANコネクタ部分に各1個あります。本体標準装備のネットワークポートの通信モードが100BASE-TXか、10BASE-Tのどちらのネットワークインタフェースで動作されているかを示します。点灯しているときは、100BASE-TXで動作されていることを示します。消灯しているときは、10BASE-Tで動作していることを示します。

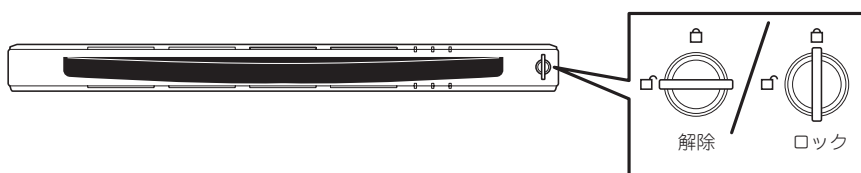
基本的な操作

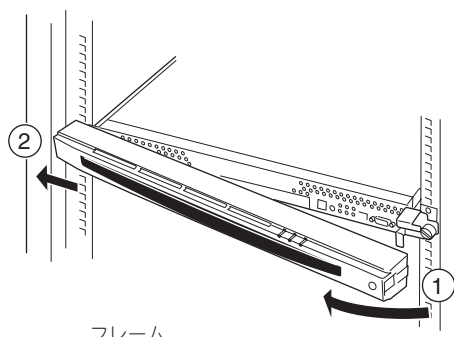
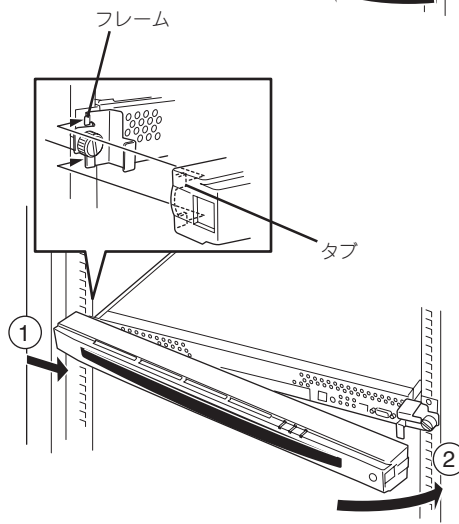
本装置の基本的な操作の方法について説明します。

フロントベゼルの取り付け・取り外し

ラックに搭載した本体の電源のON/OFFやフロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブを取り扱うときはフロントベゼルを取り外します(卓上に設置した場合は、フロントベゼルを取り付けることはできません)。

重要 **フロントベゼルは、添付のセキュリティキーでロックを解除しないと開けることができません。**

1. キースロットに添付のセキュリティキーを差し込み、キーをフロントベゼル側に軽く押しながら回してロックを解除する。

2. フロントベゼルの右端を軽く持って手前に引く。

3. フロントベゼルを左に少しスライドさせてタブをフレームから外して本体から取り外す。

フロントベゼルを取り付けるときは、フロントベゼルの左端のタブを本体のフレームに引っかけるようにしながら取り付けます。取り付けた後はセキュリティのためにもキーでロックしてください。

POWERスイッチ　～電源のON/OFF～

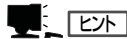
前面にあるPOWERスイッチで本装置の電源をONにします。電源のOFFはクライアントマシンからブラウザベースの「WebUI」を使います。

電源のON

電源をONにする場合は、本体前面にあるPOWERスイッチを押します。
次の順序で電源をONにします。

ここでは、セットアップを完了した後の電源のONの手順について説明しています。導入後のセットアップを始めるときは、38ページの「システムのセットアップ」を参照してください。

1. 本体に電源コードが接続されていることを確認する。

   ヒント

   電源コードを接続するとハードウェアの初期診断を始めます（約5秒間）。初期診断中はPOWERスイッチは機能しません。電源コードの接続直後は、約5秒ほど時間をおいてからPOWERスイッチを押してください。

2. 本体に接続している周辺機器の電源をONにする。

   チェック

   無停電電源装置（UPS）などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

3. ラックに搭載している場合は、フロントベゼルを取り外す。

4. フロッピーディスクドライブ、およびCD-ROMドライブにディスクがセットされていないことを確認する。

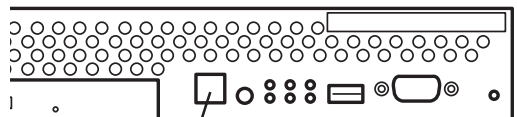
   重要

   CD-ROMドライブにディスクがセットされているとそのディスクから起動を始めます。必ずディスクがセットされていないことを確認してください(CD-ROMドライブの場合は、電源ONの直後にCD-ROMドライブのスイッチを押してトレーをイジェクトすれば問題ありません)。

   添付の「Network Attached Storage CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットしたまま電源をONするとソフトウェアの再インストールを始めます。それまでの設定がすべて初期値に戻ってしまいます。

5. 本体前面にあるPOWERスイッチを押す。

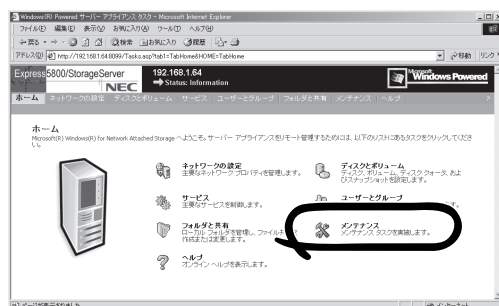
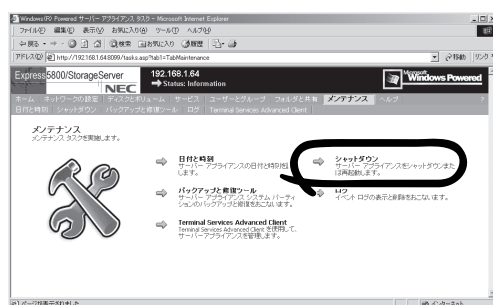
6. クライアントマシンのWebブラウザを使って本装置へアクセスできることを確認する。

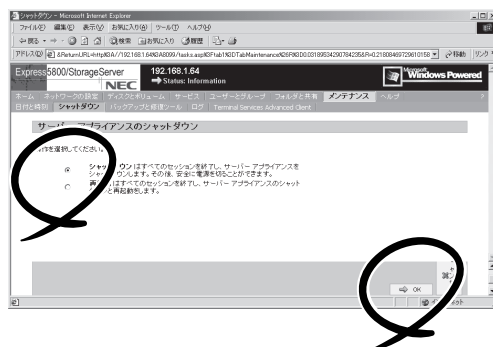
   詳しくは21ページの「本装置への接続」を参照してください。

電源のOFF

次の順序で電源をOFFにします。(本体前面にあるPOWERスイッチを押してもシャットダウン処理後に電源はOFFになります。)

1. クライアントマシンのWebブラウザより本装置の管理コンソール(WebUI)へ接続する。

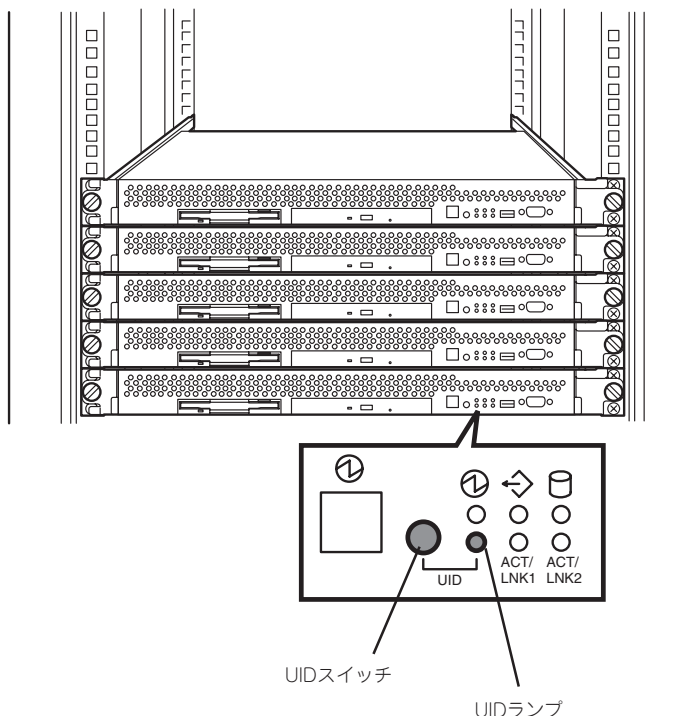
   詳しくは21ページの「本装置への接続」を参照してください。

2. [メンテナンス]をクリックする。

3. [シャットダウン]をクリックする。

4. [シャットダウン]を選択し、[OK]ボタンをクリックする。
5. 確認のダイアログボックスが表示されるので、[OK]ボタンをクリックする。

   自動的に電源がOFFになります。

強制電源OFF

「電源のOFF」に示す方法でクライアントマシンから本装置をシャットダウンできなくなったときや、POWERスイッチを押しても電源をOFFにできなくなったときに使用します。
本体のPOWERスイッチを4秒ほど押し続けてください。電源が強制的にOFFになります。
(電源を再びONにするときは、強制電源OFFから約10秒ほど待ってから電源をONにしてください。)

UIDスイッチ　～サーバの確認～

複数の装置を1つのラックに搭載している場合、保守をしようとしている装置がどれであるかを見分けるために本体の前面および背面には「UID(ユニットID)ランプ」が設けられています。

前面にあるUID(ユニットID)スイッチを押すとUIDランプが点灯します。もう一度押すとランプは消灯します。
ラック背面からの保守は、暗く、狭い中での作業となり、正常に動作している装置の電源やインタフェースケーブルを取り外したりするおそれがあります。UIDスイッチを使って保守する装置を確認してから作業をすることをお勧めします。

本体背面にもPOWERランプがあります。通電中であるかどうかを確認することができます。

フロッピーディスクドライブ

本体前面にフロッピーディスクを使ったデータの読み出し(リード)・保存(ライト)を行うことのできるフロッピーディスクドライブが搭載されています。

フロッピーディスクのセット/取り出し

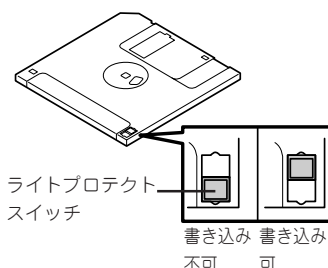
フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする前に本体の電源がON(POWERランプ点灯)になっていることを確認してください。
フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに完全に押し込むと「カチッ」と音がして、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンが少し飛び出します。
イジェクトボタンを押すとフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出せます。

フロッピーディスクアクセスランプが消灯していることを確認してからフロッピーディスクを取り出してください。アクセスランプが点灯中に取り出すとデータが破壊されるおそれがあります。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクは、データを保存する大切なものです。また、その構造は非常にデリケートにできていますので、次の点に注意して取り扱ってください。

- フロッピーディスクドライブにはていねいに奥まで挿入してください。
- ラベルは正しい位置に貼り付けてください。
- 鉛筆やボールペンで直接フロッピーディスクに書き込んだりしないでください。
- シャッタを開けないでください。
- ゴミやほこりの多いところでは使用しないでください。
- フロッピーディスクの上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- たばこの煙に当たるところには置かないでください。
- 水などの液体の近くや薬品の近くには置かないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- クリップなどではさんだり、落としたりしないでください。
- 磁気やほこりから保護できる専用の収納ケースに保管してください。
- フロッピーディスクは、保存している内容を誤って消すことのないようにライトプロテクト（書き込み禁止）ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、読み出しはできますが、ディスクのフォーマットやデータの書き込みができません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、書き込み時以外はライトプロテクトをしておくようお勧めします。3.5インチフロッピーディスクのライトプロテクトは、ディスク裏面のライトプロテクトスイッチで行います。

- フロッピーディスクは、とてもデリケートな記憶媒体です。ほこりや温度変化によってデータが失われることがあります。また、オペレータの操作ミスや装置自身の故障などによってもデータを失う場合があります。このような場合を考えて、万一に備えて大切なデータは定期的にバックアップをとっておくことをお勧めします。

CD-ROMドライブ

本体前面にCD-ROMドライブがあります。CD-ROMドライブは次の場合などに使用します。

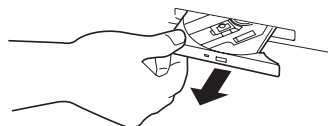
- 添付の「Network Attached Storage CD-ROM」を使ってソフトウェアを再インストールするとき（153ページ参照）
- 添付の「保守・管理ツールCD-ROM」を使って本装置を保守するとき（116ページ参照）

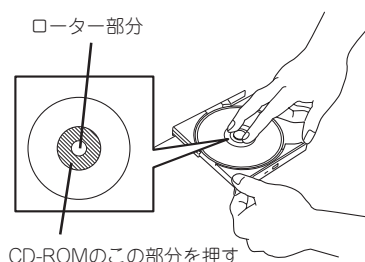
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

CD-ROMドライブのトレーを引き出したまま放置しない

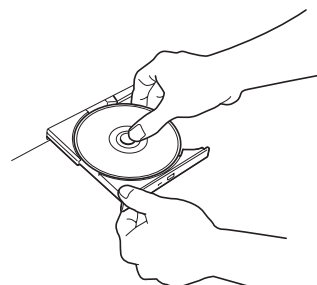
CD-ROMのセット/取り出し

- CD-ROMドライブに「Network Attached Storage CD-ROM」をセットしたまま本体の電源をONにすると（または再起動すると）、ソフトウェアの再インストールを始めます。それまでの設定がすべて初期値に戻ってしまいます。
- CD-ROMドライブに「保守・管理ツールCD-ROM」をセットしたまま本体の電源をONにすると（または再起動すると）、CD-ROMから起動し、StorageServer Liteとして使用できません。

CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする前に本体の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認してください。
CD-ROMドライブ前面のCDトレーイジェクトボタンを押すとトレーが少し出てきます。トレーを持って止まるまでゆっくりと引き出してください。

CD-ROMはCD-ROMの文字が印刷されている面を上にしてトレーの上に静かに、確実に置き、右図のように片方の手でトレーを持ちながら、もう一方の手でトレーの中心にあるローター部分にCD-ROMの穴がはまるように指で押して、トレーにセットします。

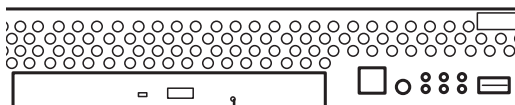
重要 **ラベルを貼り付けているCD-ROMはセットしないでください。誤動作の原因となります。**

トレーの前面を軽く押してCD-ROMドライブ内にセットすれば完了です。

CD-ROMのセット後、CD-ROMドライブの駆動音が大きく聞こえるときはCD-ROMをセットし直してください。

CD-ROMの取り出しは、CD-ROMをセットするときと同じようにCDトレーイジェクトボタンを押してトレーを引き出します。
右図のように、片方の手でトレーを持ち、もう一方の手でトレーの中心にあるローター部分を押さえながらCD-ROMの端を軽くつまみ上げるようにしてトレーから取り出します。CD-ROMを取り出したらトレーを元に戻してください。

CD-ROMを取り出せないときは．．．

CDトレーイジェクトボタンを押してもトレーがイジェクトされない場合は、次の手順に従ってCD-ROMを取り出します。

1. POWERスイッチを押して本体の電源をOFF(POWERランプ消灯)にする。

2. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる)をCD-ROM前面右側にあるエマージェンシーホールに差し込んで、トレーが出てくるまでゆっくりと押す。

重要

- **つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。**
- **上記の手順を行ってもCD-ROMが取り出せない場合は、保守サービス会社に連絡してください。**

3. トレーを持って引き出す。
4. CD-ROMを取り出す。
5. トレーを押して元に戻す。

CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMを破損しないように、次の点に注意して取り扱ってください。

- CD-ROMを落とさないでください。
- CD-ROMの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- CD-ROMにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレーにていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接CD-ROMに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、ていねいにふいてください。
- 清掃の際は、CD専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。

本装置への接続

本製品はセットアップを完了したらそれ以降は特に操作しなくても動作可能です。運用中の管理や設定の変更はクライアントマシンの「管理コンソール（WebUI）」または「Microsoft Management Console（MMC）」から行います。

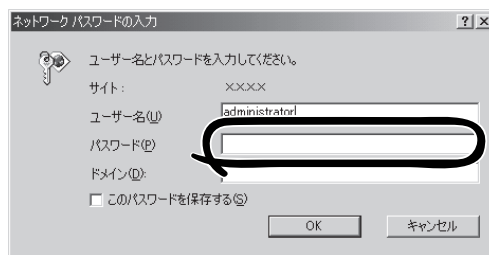
また、WebUIにはターミナルサービスクライアント機能が含まれています。

WebUIを使用する場合

クライアントマシンのWebブラウザ（Internet exploler 5.5以降）を使って、ネットワーク接続されている本装置に接続します。Netscapeはサポートしていません。

1. クライアントマシン上でWebブラウザを起動する。
2. URL入力欄（［アドレス］または［場所］など）に「http://x.x.x.x:8099/」を指定する。

   「x.x.x.x」の部分には本装置のIPアドレスを入力してください。
3. Administratorでログインする。

   パスワードは、初期状態では初期設定ツールの管理者パスワードに指定した内容になっています。

   正しくログインできると右の画面が表示されます。

また、WebUIはESMPRO/ServerManagerからも起動できます。ただし、この場合は事前にExpress5800/StorageServer連携モジュールをESMPRO/ServerManagerがインストールされているクライアントマシンに適用しておくことが必要です。

Microsoft Management Console(MMC)を使用する場合

クライアントマシンがWindows 2000の場合のみ使用できます。

1. スタートメニューから[管理ツール]ー[コンピュータの管理]の順にクリックする。

2. [操作]ー[別のコンピュータへ接続]の順に選択し、[名前]ボックスにコンピュータ名を入力する。

   コンピュータ名は初期設定ツールで設定した名称です。